

教え子再び戦場に送るのか

高知の私立高校が「自衛隊コース」新設

大運動実行委 再考を申し入れ

私立高知中央高校（高知市）が来年度、普通科に「自衛隊コース」を新設する問題で、県労連などでつくる国民大運動高知県実行委員会は29日、同校に設置の再考を申し入れたと発表しました。

同校によると、普通科の定員160人は増やさず、自衛隊コースを設置。県内すべての公立中学校に配布されたパンフレットによると、『自衛隊』をよく知ることにより、日本を取り巻く国際情勢などを身につけ、『社会の若きリーダー』となる生徒の育成を旨とし、自衛官のOBを講師とした「銃剣道」の授業や体験入隊などを予定しています。

実行委員会は同校と

の懇談を拒まれたため、28日に設置の再考

を求める申し入れ書を同校に郵送。戦争法が成立し、「自衛隊員のリスクは格段に高まる。自衛隊は単なる就職先ではなくなった」

と指摘し、「教え子を再び戦場に送らない」という戦後教育の原点に立ち返り、再考を求めています。

代表委員の一人、県労連の田口朝光委員長は「教え子を再び戦場に送る手助けは見直してほしい」と語りました。